

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991000126		
法人名	社会福祉法人 京福会		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	栃木県大田原市蛭田1795		
自己評価作成日	平成22年4月1日	評価結果市町村受理日	平成22年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年4月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームほのぼのは周囲を田畑に囲まれ、静かな環境の中にある。棟続きでデイサービスも併設されていることもあり、利用者様同士の行き来も盛んに行われている。近隣に小学校もあり、様々な行事の際に参加させて頂いている。今後は小学校だけでなく、保育園との交流や地域の行事等に積極的に参加していきたい。また、こういった交流を通じて、当グループホームを認知頂き、地域とのより良い関係を構築していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは周辺に田園地帯が広がる、長閑な環境に位置している。近隣には小学校があり、運動会等に招待されたり、児童が来所し歌を披露してくれる等、相互交流が行われている。ホームの建物にはデイサービスセンターが併設されており、地域の高齢者との交流も行われている。管理者と職員は入居者と共に過ごす時間を大切にしており、入居者が気持ちよく生活できるよう個々のペースにあわせた支援をしている。運営推進会議は定期的開催され、話し合われた事柄は運営に反映させている。消防訓練も定期的実施されており、入居者の安全面にも取り組んでいる。今後は地域からの協力を得ながら災害対策を強化していきたいと考えており、地域密着という観点から地域との交流を密にして行こうという姿勢を持って運営に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様それぞれの幸福を追求し、ご本人の意志を尊重した介護を目指す。全ての利用者様と職員が共に居心地の良い空間を作り上げていく事を理念としている。	入居者の尊厳を大切にし、快適な生活が送れることを理念に掲げており、管理者及び職員は理念を常に頭に置き、毎日の支援に反映させながら一人ひとりが満足できるように努めている。理念はホーム台所に掲示し、いつでも職員の目に入るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだ地域の一員として日常的に交流しているとは言いがたい。そうなれる様に今後も努力していきたい。	併設のデイサービスに来所する高齢者と交流したり、近隣住民から野菜の差入れがある他、地域住民にもホーム行事への参加を呼びかけている。また、小学校の運動会や学習発表会に参加している他、児童が来所し歌を披露してくれるなど相互交流に努めている。	今後、ホームでは地域行事への参加や近隣保育園等の地域との交流の機会を増やして行きたいと考えていることから、災害時における地域との連携体制構築等、今後さらに地域との交流に向けた取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献ができていない。今後行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者、家族代表、自治会長、地域包括支援センター職員、市担当職員、民生委員等の参加により2か月に1度開催している。会では、ホームからの報告の他に参加者からも活発な意見をもらい、運営に活かしている。議題は時期や時節に合せたテーマを考え、会議がマンネリ化しないよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を密に取っているとは言えないが、運営推進会議等で意見交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当職員へは制度上の報告や事務手続き等で市役所に出向いている他、電話でも気軽に相談できる関係になっている。また、運営推進会議、市ケアマネ連絡会議や支援員の交流会等が開催されており、市との意見交換の場として活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践に取り組んでおり、毎月開催している法人の学習会の場等でもテーマとして取り上げ、身体拘束防止に向けた職員間での共通認識を図っている。日中、玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努められている。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	時々学ぶ機会はあるが、活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、何か不安や疑問点が生じた場合は言って下さいと伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者様、家族様代表者に出席して頂き、ご意見を伺っている。	入居時等に重要事項説明の中で苦情等についての取り扱いを説明している他、玄関には意見箱を設置し、運営推進会議や家族の来所時等を利用して意見や要望等を遠慮なく出してもらえる雰囲気作り心がけている。家族から出された意見や要望等は職員で協議し、運営に活かすよう努めている。	家族から出される意見や要望等は少ないことから、家族間での意見交換場としての家族会等の発足に取り組んで行くことに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ワーカー会議や職員会議を行っているが、運営に関する職員の意見はない。	毎月のワーカー会議や職員会議等を利用して職員が意見を表わせる場となっているが、管理者は職員の現場での意見は大切と考えており、日常も含め自然に出される意見や提案を捉えて運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備に努められていると思う。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は毎月行い、認知症実践者研修等は毎年1名ずつ受講できる様に考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス部会等の勉強会でサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望等に耳を傾け、安心して過ごせる様に努めている。言えない方に関しては家族様と相談して決めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その様に努めてはいるが、他のサービスを利用している利用者様はいない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料金を現金払いにして、月に一度は利用者様の顔を見て頂ける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	あまりできていないので、外出する時など検討していきたい。	本人の生活歴や生活状況等を事前に職員が調査したり、本人や家族から好きな物や場所、興味のある事等を確認しながら、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。職員は本人の希望を把握しておき、誕生日等の機会を利用して家族と共に外食等に出かけてもらう等の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できていると思う。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めていきたいが、今のところ相談はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向の把握に努めている。把握が困難な場合は家族様と相談し、できるだけ本人本位になる様に検討している。	日常会話のやりとりの中から、入居者一人ひとりの希望や意向を汲み取るように努めており、意志表出が困難な場合には家族に確認する等、本人本位に検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用される前に、家族様、利用者様に聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った一日の過ごし方を検討し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画ができる様に努力している。	本人や家族の希望や必要によっては医師や併設デイサービスの看護師の意見も聞いたうえで、職員会議等で話し合いを行い、本人の現状に即した介護計画を作るように努めている。介護計画の見直しは半年毎、または状態に合わせて随時行なっている。作成した計画は家族にも確認してもらい了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月、ワーカー会議の時に利用者様ひとりひとりについて話し合い、介護の実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいると思う。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしをできる様に支援しているが、完全ではなく、今後も努力が必要。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者様と家族様に決めて頂いている。適切な医療を受けられるように支援できていると思う。	本人及び家族の希望するかかりつけ医での受診が継続して行える様に支援している。ホームの協力医療機関での受診の際には職員が付き添い、適切な受診ができるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護職員と相談し、適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や受診時に情報交換や相談を行い、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に利用者様、家族様と話し合い、方針を共有している。	入居時に本人の状態や事業所の支援体制等を踏まえて、本人及び家族との話し合いを通して重度化や終末期に向けた対応方針の共有を図っている。ホームではできる限り本人や家族の要望に沿った支援をしていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない。今後検討していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っている。今後は地域との協力体制を築いていきたい。	年2回、消防訓練を実施しており、1回は法人全体で消防署の立ち会いの下で実施し、1回は自主訓練として同じ内容で行っている。調理時の火の扱い等について、職員への指導を徹底している。緊急通報装置が設置されている他、スプリンクラーは本年度設置の予定である。	定期的な訓練が行われており、内部での連携体制は整いつつあるが、今後は事業所だけの避難誘導の限界等も踏まえ、地域住民や消防団等の協力も得ながら、地域からの支援体制の構築に向けた取組みに期待したい。

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々気を付けて対応している。	入居者への呼び方は「さん」付けにて対応し、敬語で話しをするようにしている。トイレや着替えの際にはドアを閉めて他者の目に触れないようにする等、細かな配慮に努め、一人ひとりの人格や誇り、プライバシーを傷つけないよう対応している。個人記録は事務室の鍵のかかる棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できていると思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切に、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけそうする様にはしているが、全員はできていない。	1日置きに食材を購入し、その日の担当職員が献立を考え調理している。食事の準備や後片付けは、入居者も職員と一緒にしている。食事は見守りの職員を置き、他の職員は別にとっている。	地域密着型の家庭的な雰囲気を重視し、職員も入居者と一緒と同じ物を楽しみながら食べられる様な取組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、チェックをして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくおむつを外せる様に考え、対応している。	高齢や重度化に伴い、車イス使用の入居者も多く、自力での排泄が困難な場合も多いが、定期的に声かけをしたり、夜間はおむつ使用の人も日中はトイレで排泄できるよう支援しており、リハビリパンツを利用するなど、本人の力をできるだけ引き出すように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけではなく、運動や野菜ジュースを飲んでいただく等 個々に応じた予防を考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日、時間帯は決まっているが、その他の時間帯の希望がある時は柔軟に対応したい。	日曜日を除く日中の午後の時間帯で1日おきに入浴を支援している。その他の時間帯を希望する人には柔軟に対応している。ゆず湯やくすり湯等の季節湯も取入れ、楽しい入浴ができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休みたい時には、自由に休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在飲まれている薬の一覧を各自確認している。副作用に関しては今後勉強が必要。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今後も役割、楽しみごとの支援ができる様に対応していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出できているとはいいがたいが、出かける時には利用者様の希望を聞く様に心掛けている。	高齢及び重度化に伴い、介助が必要な入居者が多いため頻繁な外出は難しいが、月1回は道の駅等への買い物計画し、外出の機会を設けている。散歩は自由に出かけられるが、近隣への外出でも介助を要する入居者が多いため、班を編成し何日かに分けて外出するようにしている。近隣の小学校に出かけて、飼育されているウサギを見たり、希望によってはスーパーでの買い物も支援している。	

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員側で預かっている。利用者様には使いたい時はいつでも言って下さいと伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある利用者様にはそうしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃に気を付け、居心地良く過ごせる様に配慮している。	リビング等の共用空間には天窓が設けられ、軟らかい明かりが差し込んでいる。空調も適切に管理されており不快な臭いも感じられない他、テレビの音量も適音であり、快適な共用空間が作られている。リビングや廊下の壁には、入居者と職員が作った季節感のある飾りやカレンダー等が掲示されており、穏やかな雰囲気づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で過ごされていると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。	入居時等に本人及び家族には、使い慣れた物や好きな物を持ち込める旨の話しをしており、本好きな人の部屋には本が置かれたり、塗り絵を好む人は部屋の壁一面に作品を掲示している他、併設デイサービスで作った作品を飾っている人もおり、思い思いの居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できている。		